

# 檜垣造船(株)の事業基盤強化計画(抜粋)

## 企業概要

- 昭和26年の創業以来、「時代のニーズに合ったよい船を建造する」という経営方針に基づき、船種を限定せず多種多様な船舶を累計700隻以上建造。
- 近年では環境規制への対応の取組を強化しており、2014年の竣工船からEEDI Phase 3対応を進めているほか、2020年には本邦初の内航貨物船での二元燃料(重油/LNG)対応船を建造した。



## 計画の概要

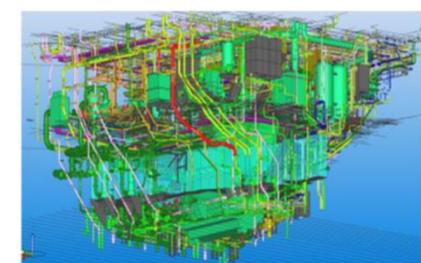
- 環境性能が高いワールドワイドのツインデッカー貨物船の開発を行う。
- 具体的には、檜垣造船建造船としては初となるSCR(選択式還元触媒)搭載により、航行区域を近海エリアからECA(排出規制)区域を含むワールドワイドに拡大する。EEDI評価値としてはフェーズ3の要求値4%超過を目指した船体開発を行う。
- また、本船型開発に並行して、造船所のDX(生産管理システム/3D-CAD設計システム等の導入)による生産性向上の取組を進めるとともに、新設した大浦工場でのブロック先行艙装体制の構築と、本社工場レイアウト全面見直しによる建造能力の増強を行う。

<計画実施期間> 2024年9月~2029年3月

<実施場所> 檜垣造船(株) 本社工場(愛媛県今治市小浦町)  
波方工場(愛媛県今治市波方町)  
大浦工場(愛媛県今治市大浦町)



ツインデッカー貨物船



DX化の取り組み